

によど川

仁淀川町広報

2009
7月号

若い力で**花鳥踊り復活**

名野川磐門神楽奉納

秋葉の里で釜炒り茶作り

仁淀高校生 知事と座談会

特集

若い力で花鳥踊り復活



花しょうぶまつりで披露

長者で行われた「花しょうぶまつり」の会場で、仁淀高校生と高知大生十五人が大勢の観衆の前で花鳥踊りを披露しました。踊るきっかけとなったのは今年二月に高知市の高知大学で開催された「高校生プレゼンフェスタ」。県内の高校生が行った調査や学内外での活動を発表するこのイベントで仁淀高校の生徒が発表課題に選んだのがこの花鳥踊りでした。生徒たちは学校の総合学習の時間に「ガイドブックとPR」について学んでおり、その中の地域活性化部門で伝統文化の継承について話し合っていたそうです。

その中の一人の高知大学一年生大野悠里さん（当時仁淀高校三年生）は、イベントに高知大生参加の話が出た時に、大学の先生に「食べ物を作って売るとしたら誰でもできる。せっかくやき自分らにしかできん事をやってみたら」とアドバイスされ「花鳥踊りをやろう」と提案しました。同級生や後輩である仁淀高校生も大野さんの意見に賛同してくれて、伝統の花鳥踊りが披露されることとなりました。

《花鳥踊り》

土佐国群雄割拠の時代、半山城主津野氏の支城須崎新庄の花鳥城を一条公の将鋪地某が攻めたが、なかなか堅固な城で、これを容易に陥落せしめることができないので、新庄川兩岸の平原に花鳥踊りを催し、城兵がこの踊りに見とれているすきを狙って、城に攻め入り落城せしめたことから花鳥踊りと呼ぶようになったといわれる。

佐川領主深尾重教の家臣、恩田武芸八勝之進が、故あって大植村へ追放となり安井家に預けられ、18歳の安井謙蔵らが恩田に花鳥踊りを習って以来、大植、折合、太郎田が共同で大植八所神社と川又八所神社に花鳥踊りを奉納するのが例となっていた。

その後、泉の人西森清三郎（文化10年生）は大植の花鳥踊りを見習って、泉や竹谷に伝授した。（仁淀村史から抜粋）



仁淀高校3年生の高橋慎也くんが歌を担当

今年も艶やかに…花しょうぶまつり

6月14日 長者の大銀杏前で「花しょうぶまつり」が行われ、町内外から百人を超える来場がありました。だんだんくらぶのメンバーらが数日前から花しょうぶ畑の草引きや会場作りと準備を進めてきました。

当日は快晴で晴れ渡る空の下、皆思い思いに散策していました。地域の方たちが出品した地場産品販売コーナーも大人気で、お昼時には行列ができるほどで、田舎ならではの個性あふれる食料品や雑貨が数多く並び、嬉しそうに買い求める方の笑顔が印象的でした。

自然の中で鮮やかに咲き誇る色とりどりの花しょうぶと、仁淀高校生らによる「花鳥踊り」を堪能した来場者は大満足の表情でした。



美しく咲き誇る花しょうぶ

高知大学の学生さんも応援にかけつけてくれました

手作りクッキーなどを販売し元気いっぱいイベントを盛り上げてくれました。今年で2回目の参加です。



左から下元恵里加さん、三木涼子さん、植木友里江さん

自分たちで長者の棚田をモチーフにキャラクター「たな田くん」を考案しグッズを販売。

「長者のことを棚田のことをもっと知ってほしい！」と頑張ってくれています。

提案者の大野悠里さん

皆忙しくてなかなか練習する時間がとれず、集まって練習できたのは本当にギリギリになってからでしたが、本番は上出来だったと思います。私も楽しかったし、同級生も「またやりたい」と言ってくれています。

今後は地域の子どもたちが興味を持って、長者の伝統「花鳥踊り」を一緒に踊ってくれたらと思います。



主催のだんだんくらぶ中島道雄会長

以前は長者小学校の児童が運動会で毎年踊っていたが、ここ数年その活動がなくなり地域住民は寂しく感じていました。

仁淀高校の生徒さんたちが花鳥踊りに興味を持って踊りを習いようと話をきいていたが、今回花しょうぶまつりに参加し花をそえてくれたことはもちろん、「やってみよう」という気持ちになってくれたことが本当に嬉しいです。強制されるのではなく、若い方々が自分たちで考え前向きに行動してくれる姿を頼もしく感じます。

踊り子募集!

現在花鳥踊りは、踊り子が減り存続が危ぶまれています。興味のある方はぜひ一緒に踊りましょう。子どもも大人も大歓迎です。

連絡先 ☎090・7570・8192 (指導者・安井繁忠)

上記につながらない場合は仁淀教育事務所(☎32・1041)まで

新緑の山里で名野川磐門神楽



▲^{うずめ}宇受姫之舞 『古事記』の「天の岩屋戸」神話を神楽化したもの

▼^{してん}四天之舞 四人の神と大蕃との舞。神と鬼との掛け合いを「鬼神平治方術行」という

6月15日 菜野河神社（峠ノ越）で国の重要無形民俗文化財に指定されている名野川磐門神楽が奉納されました。当日は16ある演目のうち13演目が奉納され、訪れた方は荘厳で神秘的な舞に見入っていました。

（11月から12月にかけて町内各地の神社で奉納します）

〈名野川磐門神楽〉

今から400年程前、平家の落人古味式部の子孫日浦小太夫が、伊勢神宮に度々参拝しその都度研修を重ね、幾多の技術を習得して磐門神楽を創始したと伝えられています。



菜野河神社で荘厳な舞

◀^{おしき}折敷之舞 膳を持って東西南北を転びながら舞う

▶^{やまぬし}山主之舞 仮面・腕抜き・チハヤ・シヤグマを着した一人舞。採物は幣と太刀で、大山祇神の舞

